

エスチユアリ

Estuary 034

～いしかり砂丘の風資料館だより～

ビデオカメラのなかった時代、普通の人が動く映像を撮ろうとしたら、8ミリカメラしかありませんでした。8ミリと言っても「8ミリビデオ」ではありません。「8ミリフィルム」です。使用するフィルムの幅を示しています。劇場で観る映画の多くは35mm幅のフィルムです。ちょっと前までテレビの刑事ドラマや時代劇は16mmフィルムを使っていました。

でも、このカメラの中に装填されているリールを見ると、フィルム幅は8mmの2倍くらいありそうです。実は1932（昭和7）年に8ミリカメラが登場した当初は、16mm幅のフィルムを使っていたのです。装填したフィルムを終わりまで撮影したら、なんと、リールを裏返して、もう1回終わりまで撮れるのです。撮影は16mmのフィルムの片側半分しか使っていないからで、リールをひっくり返すことで、8mm幅の画像が横に並んで焼き付けられるのです。撮影済みフィルムを現像所に出すと、縦に切り分けられ、2本分の8ミリフィルムとなって戻ってくるのです。これは「ダブル8（エイト）」と呼ばれた規格です。

その後、最初から8mm幅でカートリッジ入りの規格が誕生し、簡単に扱えるそれらが主流となりました。しかし昭和50年代に入ると、一般向けビデオカ

メラも販売されるようになり、8ミリは一気に衰退しました。現在、フィルムの生産と現像は細々と継続されていますが、カメラなどの機材は新品を入手することはできません。

（志賀健司 しがけんじ）

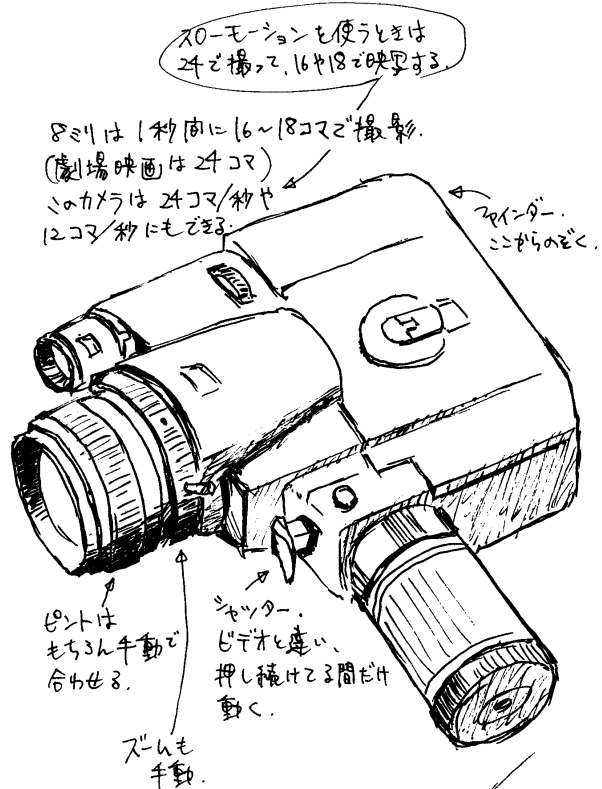
■ミノルタズーム8

（8ミリムービーカメラ）

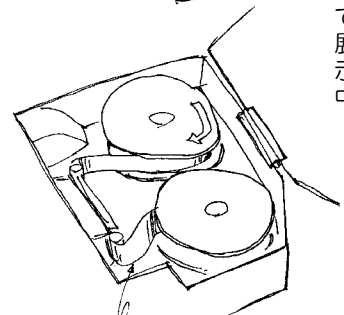
大きさ	186mm×217mm×69mm
生産開始	1962年4月
当時の価格	33,700円
寄贈者	後藤幸雄さん

展示資料のひみつ

リターンズ



★テーマ展「資料館のお宝二〇〇九」で展示中！



16mm幅のフィルム。ひっくり返して往復で撮れば、8mm幅のフィルムが2本できあがる。

海の歴史 アオイガイ減る？

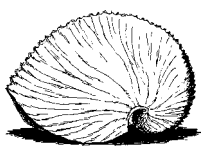
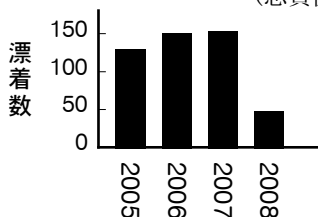
熱帯～温帯に生息するアオイガイやココヤシなど、暖流が南の海から運んでくる「暖流系漂着物」。2005年以降、北海道でも秋にたくさん見られるようになりました。特に2007年には、これまでは函館周辺が最北記録だったルリガイやギンカクラゲも、初めて石狩で確認されました。

ところが2008年秋は“不作”でした。石狩の漂着アオイガイ数は2005年～2007年の約4分の1に減少、ルリガイやギンカクラゲにいたってはゼロでした。原因はまだわかりません。また以前のように北海道では見られなくなるのかもしれないし、あるいは単なるデータのバラつきに過ぎないのかもしれない。

しかし昨秋は日本海北部の水温は低かったようだし、エチゼンクラゲも北日本にはやってきませんでした。何か関係があるのかもしれない。また、過去の本州での大量漂着の記録を調べると、発生には準周期的な波があるようにも見えます。漂着数の増減を捉えられたという点で、2008年は重要なデータとなりました。

「アオイガイが北海道で増えた」と話すと「地球温暖化ですか？」とすぐ聞かれましたが、そればかりではありません。海にはもっといろいろな環境変動があるのです。

(志賀健司 しがけんじ)



↑過去4年間の秋のアオイガイ漂着数

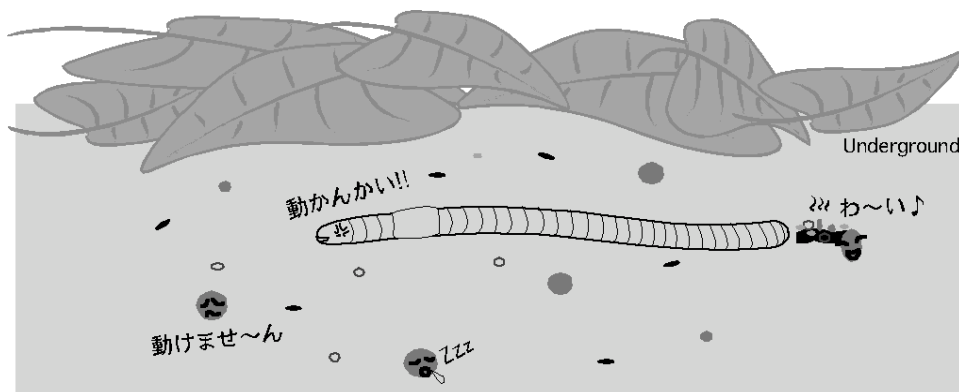
見えない者たち 山本のおもいつきノート③

雪が積もっては融けて、また積もっては融けてを繰り返しながら、何とも優柔不断な冬将軍がやってきました。皆様、インフルエンザ対策は万全でしょうか？ インフルエンザは、インフルエンザウイルスが体内で爆発的に増殖することで発症するようです。ウイルスの動きが見えないだけに「あれ、体調が悪いかも」と思った翌日には高熱で動けなくなっていることもしばしば…。今回は、そんな見えない生物たちの動きについて思いを巡らせてみました。

この時期、北海道の広葉樹はほとんどが葉っぱを落とし、枝や幹だけの姿になっています。地面を見てみると、落ちたばかりの葉っぱに混じってボロボロの葉っぱも見られます。これは、前の年の落葉が土の中にあるミミズや細菌に食べられた痕です。土壌細菌は植物や動物の枯死体を長い時間をかけて地道に分解し、それを植物の生長に必要な養分に変換しています。「残り物の後始末をさせられているのに、みんなの役にたとうと頑張っているなんて、土壌細菌はなんと健気な生物！」と言いたいところですが、この細菌はたいてい仮眠しています。温度や水分などの生息環境が整わないとなかなか動き出さないのです。細菌というと、顕微鏡画像で見るとワラワラと増えているイメージがありますが、土壌細菌は1年に1、2回程度しか増殖(=分裂)していません。働いているように見せかけて、見えないところでサボっているなんて、強かな生き物です。

ちなみに、土壌細菌はミミズが落葉を食べると同時にミミズの体内に取り込まれ、腸内細菌として活動を始めます。細菌の一部は生きたまま糞とともに排出され、糞の中の温度や水分が細菌にとって快適な状態に保たれている限り、元気に活動しています。つまり、ミミズの腸内環境が土壌細菌にとっては最適なようです。

(山本佳奈 やまもとかな)



1月～3月の講座・展示

テーマ展

資料館のお宝2009

開催中!

昔の道具でも、海辺で拾った貝殻でも、資料館にとっては未来に残す大切なお宝！
この1年間にみなさんからいただいた資料や、採集した標本などから、選りすぐりを展示。たとえば…

- ・1958年ブリュッセル万国博で金賞受賞の一眼レフカメラ
- ・洗浄処理が終了したばかりのネズミイルカ全身骨格
- ・2008年に発掘調査を終了したばかりの紅葉山52号遺跡の発掘風景、出土遺物の写真
- ・初公開の紅葉山33号遺跡出土遺物

■期間 2008年12月20日～2009年3月29日

■場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料（大人300円、中学生以下無料）が必要です。



当館スタッフ手づくり！カメラの原形「カメラ・オブスクラ」をのぞいてみよう！

野外講座

石狩ビーチコーマーズ／冬

2月開催

漂着物は海からの手紙。
冬の北西季節風が石狩浜に運んできた漂着物を観察、採集して、正体や起源をみんなで考えます。

- 日時 2月22日（日）09:00～13:00
- 場所 砂丘の風資料館～石狩浜（※冬の砂浜を3km歩きます）
- 対象 小学4年生～大人（小学生は保護者同伴で）
- 定員 20人（先着順）
- 持ち物 防寒着、長靴、手袋、帽子、ビニール袋など
- 費用 無料
- 申込 2/5（木）～2/20（金）の間に電話で資料館（0133-62-3711）へ

予告!

野外講座

石狩ビーチコーマーズ／春

春も、ビーチコーミング、やります！

- 日時 4月19日（日）09:00～13:00
- （※開催日は変更することがあります）

4月開催

カメラがあつたなら

彩雲を見たことがありますか？

太陽の近くを通りかかった雲が緑や赤に彩られる現象のことを、「彩雲」というのだそうです。

私は一度だけ見たことがあります。

10年以上も前のことで、季節は冬だったと思います。何気なく窓の外に目をやると、広い空の太陽の近くだけ雲の色が違って見えたのです。彩雲という言葉は知っていましたが、実際に目にしたときの驚きと感動は忘れられません。あいにく、カメラやビデオカメラが手元になく、映像に残すことはできませんでした。彩雲を撮ることができなかった私は、こんなに感動したのだから一生忘れることはないだろうと思っていました。歳月が流れるとともに頭の中の映像はだんだん薄くなってきているようで、形に残しておくことも必要だと改めて感じています。

携帯電話にカメラ機能が付いたのは、携帯会社の社員の方が「この場面をカメラに撮り残しておきたい」と思ったときに、携帯電話はあるけどカメラがなかった、ということから開発されたと何かで見ました。

12月20日から始まったテーマ展「資料館のお宝2009」では、一般の人の手に普及し写真撮影を楽しむ人が増えた頃のカメラ（昭和30年代の一眼レフカメラ、2点）などを展示しています。興味のある方は、ぜひ、いらしてください。お待ちしております。◆

（倉雅子 くらまさこ）

一年をふりかえって

2008年は二冊の本の刊行に携わりました。一冊目は石狩町最初の産婆さんと思われる北生振の産婆佐々木トメさんの生涯とその遺徳を偲ぶ会「北生振観音講」の歴史を綴ったものです。これは2007年から北生振の蓮田さんと観音講の女性たちと協同作業で、春3月に完成できました。印刷費など経費は町内会や女性部、寄付などで賄われましたが、幸い実費頒布が好調で赤字は出さずに済んだようです。

もう一冊は完成が今年1月となりましたが、10年がかりで刊行される「石狩八幡神社史」です。この本は、神社に保管されている文書の整理解読から始められ、石狩市郷土研究会の田中實さんと協同作業で行なわれました。手間が大変で、結果的に10年という歳月をかけてまとめることができましたものです。私は主筆ではありませんでしたが、ほっとしたところです。

石狩八幡神社は安政5年、蝦夷地総鎮守として計画された社で、北海道の近世の歴史と深くかかわる神社です。こうした由緒ある神社の歴史をまとめる仕事の一端を担えたことは大変幸運だったと思います。市民図書館などに寄贈されますので興味のある方はご覧下さい。もちろん佐々木トメさんの本も市民図書館にありますので、あわせてご覧下さい。

また去年は久しぶりで遺跡の発掘調査を行ないまし

た。前にお知らせしたとおり、発掘した遺跡は、花川南五条橋の右岸側にある紅葉山52遺跡・K483遺跡で、縄文文化とアイヌ文化の遺跡です。遺跡は縄文時代中期（4000年前）と16世紀前後のサケマスを捕獲する漁撈施設（テシ）の跡、それと漁撈にともなうの送り（※）、生活用具の送りなど、川を使用した儀礼が行なわれた形跡も見られました。歴史的にはシャクシャインの戦い（1669年）以前で、そのころのアイヌ文化の一端が分かる遺跡です。

2008年の私のメインイベントは以上のようなことでした。皆さん今年もよろしく願います！ ◆

（石橋孝夫 いしばしたかお）

※「送り」とは、アイヌ文化に顕著に見られる儀礼。彼らはすべてのものに霊があると考え、生活上の糧として得た動植物、使用した器物に対し「送りの儀式」を行なって、それぞれ所属する世界に送り戻し、再生を願います。例えば「クマ送り（クマ祭り）」はその代表です。

編集後記

“CO2による地球温暖化”に騙されるな、これから地球は寒冷化する———このように主張する研究者がいます。決して怪しげな人物ではなく、数多くの業績を上げている地質学者です。その理論はここでは省略しますが、彼が言うには、今後10年以内に寒冷化の兆候が現れるだろう、とのことでした。

僕自身はその理論の真偽を判断できるほどの材料を持っていません。しかし2008年は、近年ずっと減り続けていた北極海の氷が増加した、エチゼンクラゲが北日本までやってこなかった、など、これまで温暖化が原因（かもしれない）？とも言われていた現象に変化が見られました。北海道のアオイガイ漂着の減少も、関連した現象なんのでしょうか。どちらにしろ、たかだか1年くらいのデータで語るのは論外です。人間の意見を鵜呑みにせず、観測を続けて客観的に判断しなければいけません。（け）

■最近の「いしかり博物誌」（石狩市広報に連載中）

☞第98回：石狩から見える山（絵画編）（09年1月号）

エスチコアリ No.34

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分
 休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始
 入館料 300円（中学生以下は無料）、
 団体料金240円（15名以上）
 交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、
 「石狩温泉」下車、徒歩1分
 （石狩温泉「番屋の宿」向かい）

2009年1月16日 発行

いしかり砂丘の風資料館

〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

TEL/FAX: 0133-62-3711

bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/